
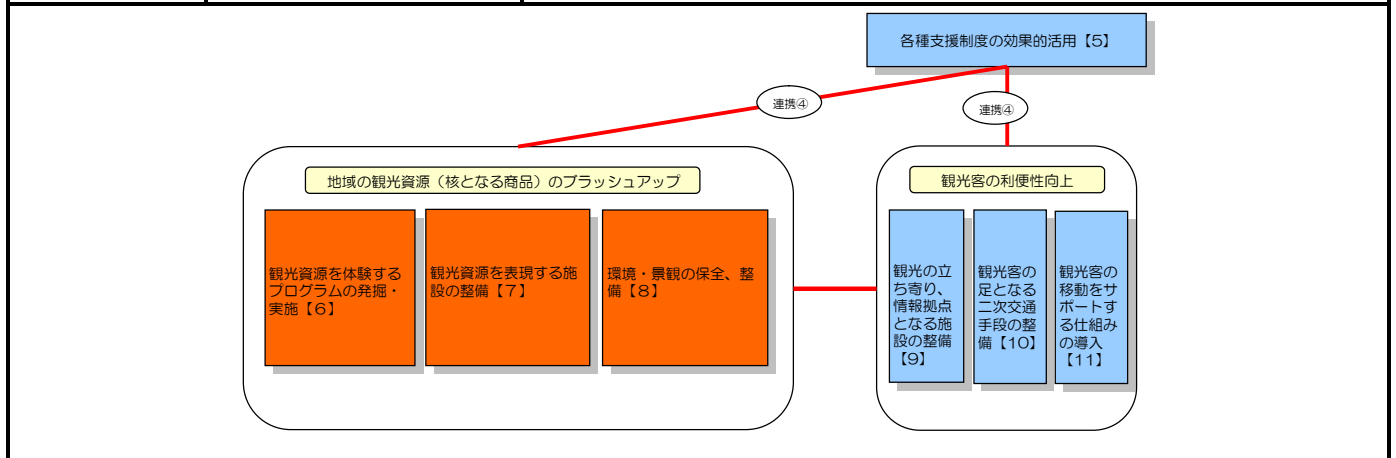


連携 ④	各取組への支援制度の効果的活用  取組【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】
	特徴的な事例 01-二セコ 04-角館 06-酒田 09-館山・南房総 11-高野山 13-内子 14-豊後高田 16-黒川温泉



連携の狙い

○観光資源を表現する施設やその周辺環境を整備する際に、各種支援制度を効果的に活用することで、費用面での問題解決、地域イメージの効果的な発信を図る。

連携のポイント

○資源特性やコンセプトに応じた支援制度の選択

・観光地を整備する際に、支援制度を活用している地域は多いと思われるが、それらを自らの地域の観光資源（コンセプト）と照らし合わせ、どの部分にどの支援制度を活用すると有効かを判断する必要がある。

○費用負担と活用のメリットの総合的な判断

・支援制度を効果的に活用することにより、地域づくりを費用の面からサポートすることができる。しかし、支援制度といっても内容は様々であり、起債を必要とするものもあるので、①活用による費用面での負担がどの程度のものになるのか、②活用だけのメリット（どの程度地域の観光資源の魅力を引き出してくれるのか）があるのか、を十分に考慮する必要がある。

○地域の取組の発信方策としての副次的効果

・支援制度活用のもう一つのメリットとして、地域イメージの効果的な発信が考えられる。新たな支援制度のモデルケース、パイロットケース等に応募することにより、関係者への認知度の向上、新たな制度の情報提供等を得ることができる。

○地域の景観整備に対する支援

・地域の観光資源の景観を統一的に整備する際には、行政側で景観条例等を策定し、地域側がそれに基づく助成金を得ることが効果的である。地域の観光推進組織等の独自財源で景観を整備するよりも、一度にまとまった資金を得ることができるため、より完成度を高めることができる。

期待される効果

○地域の方向性（コンセプト）に合致した支援制度を活用することで、より効果的に地域づくりを進めることができる。